

第1回 WRO 国際大会 World Robot Olympiad



WRO 国際諮問委員・WRO Japan 実行委員長



株式会社 永和システムマネジメント 小林 靖英



2004年11月6日～7日、シンガポールのコスタサズ・リゾートにて、第1回WRO国際大会が開催されました。秋深まる日本を飛び立ち、気温32度のシンガポールにてくり広げられた熱戦の様子を紹介していきます。WROはWorld Robot Olympiadから命名された小中高校を対象とした競技会です。

WROの特徴

1. Olympiadの名が示すように、ロボット・アスリートによる競技がテーマ。
2. 自律型ロボットによる競技会。ロボットはプログラムにより制御される自律型であり、メカトロニクス+ソフトウェア開発にチャレンジする。
3. 市販のロボットキットを使用することが義務づけられている。今回はLEGO MINDSTORMSとプログラミング用ソフトウェアはROBOLABが適用された大会となっている。
4. 最終競技ルールは競技前日に発表され、ロボットは競技当日の会場で制限時間内に製作する。

市販ロボットキットを使っているのは参加の門戸を広げるため、より多くの子供達に、身近にロボット製作・制御にチャレンジしてもらおうとしている。

また、競技当日に製作するのは、規定の部品、ソフトウェアを使っていることを確認するとともに、子供達の問題解決力の育成を狙ったものである。基本ルールは半年前に公開されているが、競技当日にいくつかの変更があることが通知されている。このいくつかの変更というのが、今回日本代表チームを悩ませることとなった。さて競技結果は…。

第1回の今年は、アジア、太平洋地区の13の国と地域から89チームが参加した。WROは、シンガポール国立サイエンスセンターの呼びかけで始まったもので、各国において科学館や科学教育機関と企業、大学が連携して運営されている。

日本では、科学技術館((財)日本科学技術振興財団)の協力のもと、子供達を中心に科学技術体験を中心に活動している、企業エンジニア、NPO、大学研究者らにより実行委員会が結成されWRO Japanとして運営されている。9月26日に科学技術館にて開催されたWRO Japan決勝大会にて選抜された日本代表4チームが参加した。



コスタサズ・リゾート。右側の白い特設ドームが競技会場



開会式で挨拶をするシンガポール文部大臣



開会式では現地の小学生による歓迎の踊りが披露された

参加国・地域：日本、ブルネイ、中国、香港、インドネシア、韓国、マレーシア、フィリピン、シンガポール、スリランカ、台湾、タイ、ロシア

各国・地域とも、国内大会を行い選抜された代表チームが参加した。今大会では、開催国のシンガポールが最多31チームの参加、ついで中国、タイが12チームの参加と

なっている。中国では国内地域予選に1,000チーム以上の参加があったようだ。

日本代表4チームは、WRO Japan 決勝大会の後にも開発、練習を重ねてシンガポール

にやってきた。なにしろWROの国際大会は今回が初めて…。手探り状態の中、胸と肩に日の丸を付けた子供達のチャレンジが始まった。